



9月

心からの笑顔で



岩内東小学校長 中田 亨



今 月6日未明に発生した北海道胆振東部地震から3週間が経過しましたが、いまだに日常生活を取り戻すことができず不自由な生活を余儀なくされている方が多くいらっしゃるようです。改めてこのたびの震災で尊い命を落とされた方やご遺族の方に哀悼の意を表しますとともに被災された方々へのお見舞いを申し上げます。一日も早い復興を心よりお祈りいたします。

さ わやかな秋晴れの中、児童玄関前の桜の葉が色づき始め、スポーツや文化、芸術、そして味覚の秋を迎え、豊かな季節となってまいりました。子供たちは、マラソン記録会で汗を流し、今は学芸会に向けてそれぞれの学年の演目の練習に打ち込んでいます。

と ころで、今月初めに後P連研究大会が共和町で開催され、「笑いをお供に輝いて生きる」と題して、いのちの落語家・作家の樋口強氏の講演がありました。樋口氏は43歳の時に3年生存率5%と言われた悪性の肺がんを発症したそうですが、懸命な治療と闘病生活の中で一命をとりとめ、現在はいのちの落語家として全国はもちろん海外でも講演会を開催し活躍されています。

今 も全身の感覚がマヒするという重い後遺症を抱えながら講演会をこなされていますが、笑いこそが最高の抗がん剤という信念のもと本当の健康とは病気の有無ではなく心の状態にあるというご自身の持論を小噺を織り込みながら説得力のある口調でお話してくれました。

小噺その1 「モスクワの人は食べ物が少ないんだってねえ」
「そりゃ、はらも すくわ(モスクワ)！」 *会場では少し間をおいて笑い声

小噺その2 「奈良の大仏さんと、鹿児島西郷さんがけんかしたらどっちが勝つと思う？」
「(大仏は)ぶつぞう！(西郷さんは)どうぞう！」で大仏さんの勝ち。
*わかりやすい性格の人にうける。

小噺その3 「お父さんの会社って大きいんでしょう！どれくらいの方が働いているの？」
「(ちょっと考えて)そうだなあ、半分ぐらいかな？」 *仕事が絶頂期の人にうける

小噺その4 「おばあちゃん、餅ってどうしてカビが生えるの？」
「あんたが早く食べないからでしょ！」 *おばあちゃんならではの粋な答え

自 分がいつも笑顔でいられるように、「生きて輝く5人衆」(笑顔になれる5つの人やモノ)を順位をつけて持つことが大事だと締めくくりました。そうすることで、「いつも笑顔で家族と接することができるんです。つくり笑顔ではなく心からの笑顔で接することで、自分にも笑顔が戻ってきます。そうするとどんなことも前向きに考えられるようになるんです。笑顔でいると(自分が)輝くことに気づいたんです」と。心からの笑顔には自分も他人も幸せにする力があります。ストレスを解消し、病気の予防や免疫力を高める効果があることも分かっています。忙しい現代だからこそ心に余裕をもって日々を過ごすことが大切なんだと改めて考えさせられた講演会でした。

